

[第七回日本言語文化学会発表要旨]

インタビューにおける韓国人上級日本語学習者と日本人のあいづち研究

佐々木由美

(1993. 12. 4 発表)

1. 研究概要

韓国人上級日本語学習者による日本人へのインタビュー場面における両者の発話にみられるあいづちに焦点を当て、あいづちの談話への影響を調査した。具体的には、(1) 話者交替に及ぼす影響 (2) 形態的頻度と機能的頻度 (3) 談話上のコンテキスト、以上3点について考察を試みた。

2. 研究データとその背景

韓国人上級学習者による日本人へのインタビューを録音した音声データの内の5ケース。このデータは、システム桐葉外語（日本語学校）より提供されたもので、1992年4月～9月に週1回2時間、同校において『インタビューで学ぶ日本語』（堀・三井・森松：1991/凡人社）を教材とした会話授業の一環として行われたインタビューの記録。

(1) 韓国人学習者 (Interviewer)の属性と日本語学習歴

KFA=女・26歳・学習歴4年・韓国の大学の日本語科卒業

KFB=女・25歳・学習歴4年・韓国の大学の日本語科卒業

KFC=女・35歳・学習歴8年・日本語教師歴5年

KMB=男・27歳・学習歴1年半・日本において学習を開始

KMC=男・26歳・学習歴1年・韓国の大学の日本語科で学習

\*上記の学習者はそれぞれ学習歴が異なるが、いずれの学習者もインタビュー録音直後の日本語能力検定試験において1級に合格していることから、上級学習者とした。

(2) 日本人 (Interviewee)の属性

JMA=男・40歳・エンジニア

JFA=女・22歳・大学生（英語専攻）

JFB=女・52歳・日本語教師（教師歴6年）

### (3) 各ケースのインタビューの時間と概要

[ケース1] KFA&JMA/25分「女性の社会活動について」

[ケース2] KFB&JMA/20分「国内旅行の方法について」

[ケース3] KMB&JFA/10分「関西と関東について」

[ケース4] KMC&JFA/10分「学校教育の目的について」

[ケース5] KFC&JFB/15分「日本女性の結婚について」

### 3. 本研究におけるあいづちの分析の枠組

「話を聞いていますから続けて下さい」を意味する”CONTINUER”（メイナード：1993）としてのもの、「話の進行を助けるために話の途中に聞き手が入れるもの」（水谷：1988）「聞いているという信号」「理解しているという信号」「同意の信号」「否定の信号」「感情の表出」（堀口：1988）として、応答を含む全てのあいづち詞とくりかえし表現を分析対象とする。くりかえし表現とは「会話において既になされた発話（またはその一部）をくり返している場合」（中田：1991）を指す。ただし、録音データを扱うため、音として発話されたあいづちのみを分析する。

### 4. 考察

#### (1) あいづちが話者交替に及ぼす影響

- (a) あいづちは話者が談話の主導権を取るきっかけに使用すると考えられる。
- (b) あいづちによる話者交替が起こるのは発話途中（未完結文の後）よりも発話が完結してから（特に完結肯定文の後）が多いと考えられる。
- (c) 韓国人学習者はあいづちの後に談話の主導権をとることが多いが、これは、インタビュアーとしての役割上の傾向とも考えられる。

#### (2) あいづちの形態的頻度と機能的頻度

- (a) あいづちの形態として、韓国人学習者は「はい系」を最も多く使用する傾向があり、続いて「そう系」が多い。一方、日本人は「ええ系」を多く使用する傾向があり、つぎに「はい系」が多い。
- (b) あいづちの機能として、相手の談話の主導権を取ることなく、相手に同意または了解を示すためのものが最も多く、続いてメイナード（1993）堀口（1988）のいう、聞いている合図としての機能が多い。

- (c) 日本人は「ええ」「うん」などのあいづちを、“FILLER”として多く打つ傾向が韓国人よりもある。
- (3) あいづちの談話上のコンテクスト
- (a) あいづちは発話途中（未完結文の後）に打たれることが最も多く、続いて発話が完結して（完結文の後）打たれることが多い。
- (b) また、あいづちは終・間投助詞や接続助詞の後に打たれる傾向があると言える。すなわち、これらがあいづちの誘因となっていると考えられる。
- (c) 韓国人学習者は終・間投助詞の後にあいづちを打つことが日本人よりも多い。一方、日本人は接続助詞の後にあいづちを打つことが韓国人学習者よりも多い。

< 参考文献 >

- 中田智子（1991）「会話にあらわれるくり返しの発話」  
『日本語学』第10巻10号
- 堀口純子（1988）「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」  
『日本語教育』64号
- 堀口純子（1991）「あいづち研究の現段階と課題」『日本語学』第10巻  
10号
- ポリー・ザトラウスキー（1986）「談話の分析と教授法(I)(II)－勧誘表現  
を中心に－」『日本語学』第5巻11号・12号
- 松田陽子（1988）「対話の日本語教育学－あいづちに関連して－」  
『日本語学』第7巻13号
- 水谷信子（1984）「日本語教育と話しことばの実態－あいづち分析－」  
『金田一春彦博士古稀記念論文集』第2巻 言語学編  
三省堂
- 水谷信子（1988）「あいづち論」『日本語学』第7巻13号
- メイナード・泉子（1993）『会話分析』くろしお出版

（お茶の水女子大人間文化研究科比較文化学専攻2年 佐々木由美）